

越後佐渡おもひる歴史ばなし

興味は尽きない—番付に見る越後のあれこれ—

番付は、17 世紀中頃に歌舞伎などの興行に伴い、宣伝用のパンフレットとして印刷されたものです。やがて相撲興行でも作成され、力士、行司などの階級・地位を東西に分けた一覧表で示す「相撲番付」(注)が生まれました。

この形式を借りて、相撲番付以外の様々なものに順位をつけて比較するようになりました。これが「見立番付」とよばれるものです。見立番付は単純に番付と呼称されました。

番付は名所や土産比べなど、庶民の関心が高いものを題材に、序列をつけて番付表に仕立てられました。

これが越後でも流行し、越後国内での産物・名物・山・川比べなどが作られ、さらに長者番付なども作られていきます。

江戸時代末期の元治元年(1864)に記された『越後土産初編』の中にある「産物見立取組」は、当時の町や村でとれる名物や産物を大関・関脇・小結などの順位で見立てたものです。東西の大関・関脇は織物が占め、織物が越後の主産業であったことがわかります。小結以下には水引、茶、塩、酒、蠟、材木など多岐にわたっています。各地域に多種多様の産物があったことがわかります。

明治 19 年(1886)に作成された『越後持丸鏡』は、新潟県における長者番付です。上位は全国屈指の大地主、大商人、実業家が占め、総勢 252 名の人名が掲載されています。

掲載されている中には旧北蒲原郡天王村(現新発田市)出身、大地主で納税額でも全国一位となり、

貴族院議員にも当選した市島徳次郎や、旧北蒲原郡金塚村(現新発田市)出身、大地主で、第四国立銀行設立の中心になった人物の白勢長兵衛もいます。

また、旧南魚沼郡石打村(現南魚沼市)出身、旧庄屋で上越線敷設の功労者の岡村貢もその一人です。

人々は、これから町や村の特色ある多くの産物、そして人物であれば長者と言われた地主・商人・実業家を知り、話題にしてきました。

いつの時代も興味関心を集めたランキングの世界からは、郷土の状況や、そこに活躍した人たちも見えてくるのです。

(注)

相撲の番付表に「横綱」の名称が採用されるのは明治 42 年(1909)のことであり、それまでは番付表の最上位は「大関」であった。

【越後土産初編 産物見立取組】
(請求記号：E0806-1-246)

【越後持丸鏡】(請求記号：E9903-248)

令和3年度企画展 紹介

2階の閲覧室及び1階のエントランスホールでは、約2か月ごとにテーマを決めて所蔵資料を紹介する企画展を行っています。今年度は「お待たせしました！文書館で見られる新資料」と銘打って、この数年で閲覧可能になった資料を紹介しています。

○第1回 「江戸の村医者から明治の病院へ」

〔4月27日(火)から6月27日(日)まで〕

幕末から昭和まで続く医者の家系である渡邊家の「北蒲原郡本田村医家渡邊家文書」を用いて、医学書や病院設立に関する資料を紹介しました。



第1回企画展 1階エントランスホール

○第2回 「幕藩体制を支えた村役人の文書～堀之内組大庄屋宮家と見附町大庄屋金井家～」

〔6月29日(火)から8月29日(日)まで〕

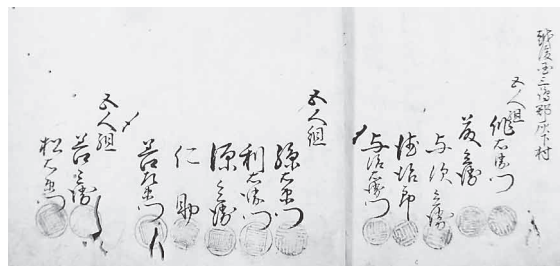
大庄屋を務めた宮家・金井家の資料を用いて江戸時代の村役人の仕事やより広範囲を治める大庄屋について解説しました。

○第3回 「文書館収蔵資料にみる印鑑使用の歴史」

〔8月31日(火)から11月21日(日)まで

(10月19日(火)～11月7日(日)は除く)〕

「脱ハンコ」が進められる今、印鑑使用の歴史について所蔵資料を比較しながら紹介しました。



第3回企画展 展示資料 文化12年三嶋郡灰下村五人組御仕置帳 (請求記号：E1315-14)

11月以降も様々なテーマを設定しながら、ここ数年で閲覧可能になった資料を紹介していく予定です。

○第4回 〔11月23日(火)から1月16日(日)まで〕

○第5回 〔1月18日(火)から3月13日(日)まで〕

○第6回 〔3月15日(火)から5月1日(日)まで〕

令和3年度特別企画展 郵便今昔物語—郵便創業150年— 開催案内

新潟県上越市出身の前島密が中心となって1871年(明治4)に創設された郵便制度が今年150年を迎えました。当初、郵便事業はどのようにスタートしたのか、戦時中の戦地とのやりとりは、など資料を交えながら解説します。自由な往来が困難な今の時代、通信・郵便制度の歴史を紐解きつつ、郵便の魅力を再発見してみませんか。

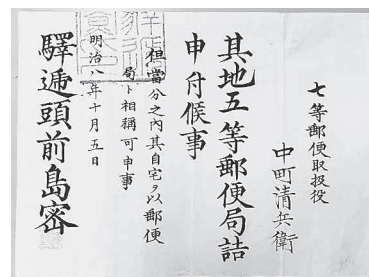
日時：令和3年10月19日(火)～11月7日(日) 9時30分～17時

連動企画として〈特別企画展解説講座〉を開催します。

日時：10月27日(水)、11月4日(木) 13時30分～14時30分

※両日ともに同じ内容、要事前申込

特別企画展をより楽しんでいただくため、展示された資料に関することや歴史的背景などについて、文書館職員が解説を行います。

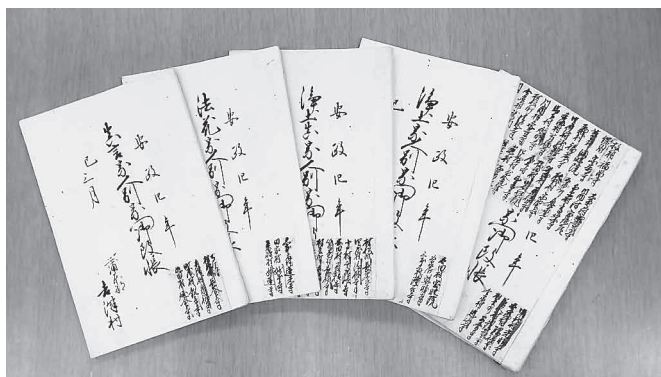


展示資料
〔辞令〕(五等郵便局詰)
(請求記号：F72-772)

令和2年度までに閲覧可能となった受贈文書

○令和2年度より、新たに閲覧可能となった受贈文書を紹介します。

請求記号	文 書 名	概 要
E9320	三島郡野中才村庄屋古澤家文書	燕市（分水）。村上藩領→幕領→白河藩領。村上藩領から桑名藩領と変化した村の展開が分かる。未整理分を78点追加。
E1007	北蒲原郡本田村医家渡邊家文書	寛永12年（1635）～昭和46年（1971） 727点 渡邊家は幕末から昭和30年代まで続く医家である。書籍は教科書・ノート類だけではなく、江戸時代から昭和前期の医学書が含まれている。また、病院設立時の規約や処方録など、当時の医療体制が窺える貴重な資料も残されている。
E1604	中魚沼郡川治村松澤家文書	天和2年（1682）～昭和期 555点 川治村庄屋役を務めた松澤家の資料で、質地証文などの証文類を主とし、山林の管理に関する書類や、後年の写しではあるが天和～元禄までの検地帳や年貢割付状も残されている。 近代に入ってから松澤家の婚礼・葬儀等の横長が残されており、明治から大正期にかけての婚礼・葬儀の風俗を知ることができる。
E1703	中蒲原郡吉沢村小出家文書	寛永6年（1629）～昭和33年（1958） 334点 中蒲原郡吉沢村（現五泉市）小出家は江戸時代のはじめから続いている家で、庄屋をつとめ染物を扱っていた。 着物柄の雛形や動植物の絵などが描かれた和本が残されており、江戸末期の半檀家制が見られる宗門人別帳などもみられる。
E2001	旧柏崎市村山家屏風下張文書	近世（文化～天保） 114点 柏崎市村山家の東海道五十三次図屏風の下張に使われていたものである。村山家との関わりは不明であるが、主に文化～天保期の蒲原郡（現在の胎内市、阿賀野市、五泉市、新潟市、三条市、見附市）と古志郡（長岡市）、三島郡（出雲崎町）、刈羽郡（柏崎市）の宗旨人別改帳、願書類、出頭通知が見られる。



左【安政4年 人別宗門御改帳】（請求記号：E1703-124）



右【〔着物柄雛形〕】（請求記号：E1703-67）

…………… 令和 3 年度 10 月以降の主催講座一覧 ……………

○古文書講座

講 座 名	日 程	会 場	定 員	申込開始日
はじめての古文書講座（秋季）	11/10・17・24（水）	制作演習室	15 名 （予定）	10/12（火）
古文書初級解説講座（冬季）	A：12/ 8・15（水） B：12/10・17（金）	大研修室	各 45 名 （予定）	各コースとも 11/ 5（金）
古文書解説講座（冬季）	1/26・2/ 2（水）	大研修室	45 名 （予定）	12/21（火）

※時間はすべて 13：30～15：30 の 2 時間です。 ※テキスト代として 100 円が必要です。

※古文書初級解説講座（冬季）については、A・B コースともに同一内容です。

※各講座の定員は新型コロナウイルスの感染状況により変更する可能性があります。

○「新潟県の歴史」講座

歴史 講座	講座回	日 程	会 場	定 員	申込開始日
	第 2 回	3 / 5（土）	ホール	63 名（予定）	2 / 2（水）

※講師は県内外の歴史研究者を予定しています。 ※時間は 13：30～15：30 の 2 時間です。

※定員は新型コロナウイルスの感染状況により変更する可能性があります。

○特別企画展解説講座

コース	日 程	会 場	定 員	申込開始日
A コース	10/27（水）	大研修室	45 名（予定）	各コースとも 9/24（金）
B コース	11/ 4（木）	大研修室	45 名（予定）	

※ A・B コースともに同一内容です。 ※時間はいずれも 13：30～14：30 の 1 時間です。

※定員は新型コロナウイルスの感染状況により変更する可能性があります。

アーキビスト 文書館職員随想

2021 年は、2 度目の東京オリンピックが、新型コロナウイルスの猛威未だやまぬ中ではあるが開催された。開会式では、人間ピクトグラムのパフォーマンスが大きな話題となった。こうした演出実施については、賛否両論あることだろう。しかし、このパフォーマンスによって世界中のより多くの人々（日本語・英語等を解しない人々、文字等を学ぶ機会に恵まれない人々など）に競技の内容が伝わる方法であったといえるのではないだろうか。

さて、当館では今年度中学生の職場体験を受け入れた（昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で受入を見合わせていた）。体験では、くずし字の読み方を学んだり、特別企画展の展示物を一部作成してもらうなど、当館所蔵の資料に触れてもらう体験を取り入れ、中学生にも古文書などの史料に触れる喜びを理解してもらうことを念頭においてプロ

グラムを作成・実施した。

文書館は、新潟県の歴史の情報センターとして、専門的な研究に貢献することはもちろんであるが、同時に、とりわけ学校教育との連携などより多くの県民の皆様に興味・関心を持っていただけるようにすることにも十分に手を砕きながら日々の業務に努めていきたい。
(目黒記)

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市中央区女池南 3 丁目 1 番 2 号
TEL 025-284-6011 FAX 025-284-8737
URL https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/?page_id=569
E-mail archives@mail.pref-lib.niigata.niigata.jp